



# 鐵道旅行案内



## 北陸線

一 北陸本線	米原、直江津間	三六六	五
一 小濱線	及敦賀、敦賀港間	二	七
一 三國線	敦賀、新舞鶴間	八	四
一 七尾線	津幡、能登半島間	七〇	六
一 中越線	高岡、城端間	二九	九
一 氷見線	高岡、氷見間	一六	五
一 新湊線	能町、新湊間	三	六
一 飛越線	富山、笹津間	二五	三

その本線は東海道本線米原から分岐し、琵琶湖岸に沿ひ北して北陸に入り、露領沿海州との交通門戸たる敦賀に至つて右し、福井、金澤、富山を経て直

江津に行つて信越線に接続してゐる。その間、敦賀から分岐して新舞鶴に至る小濱線があり、金津から分岐する三國線があり、津幡から分岐して能登半島を縦断する七尾線があり、高岡から分岐して北は氷見に至る氷見線、南は城端に至る中越線があり、氷見線の能町からは新湊線、富山からは飛越線が岐れて笹津に至つてゐる。

汽車は米原を後にすると直ちに琵琶湖の水光に接し、右に伊吹山、左に七本槍を以て名高い賤ヶ嶽や余呉湖を眺めつゝ柳ヶ瀬隧道を過ぎれば地は既に北陸で、やがて敦賀の市街に接するのである。敦賀からは西に小濱線を岐ち、本線は北に向つて木ノ芽峠の山脈に數箇の隧道を穿つて行く。隧道の絶え間には美しい敦賀灣が車窓の眺めに入り、近く蝶螺ヶ岳半島の横はるがあり、頓に眼界の清新なるを覺える。

山間の一驛を杉津といふ。絶壁の半腹にあつて眺望絶佳、本線中稀に見るの好風景である。元比田の隧道を過ぎれば鐵路は東に迂回し、今庄に至つて平野に入り武生を経て福井を指す。福井からは九頭龍川を渡つて尙平野を走り、細呂木から國境に連る山路を下つて加賀の大聖寺に至り小松驛から再び海岸に近づき、青松白沙の間に蒼海を望み、小舞子、美川の邊り展望殊に秀麗である。

金澤を後にすると河北湯の風光がある。津幡は七尾線の岐れる所で、本線は木曾義仲の奇捷を以て名高い俱利伽羅峠を越えて越中に入る。福岡を過ぎれば平野は漸く開けて高岡市に至る。こゝから中越線と氷見線とが南北に岐れてゐる。高岡、富山の間、檜、榛などの雑木林が田野の間に散在し、茫々たる廣野の眺望を碍げてゐる所がある。これは富山平野

の特色であつて前田氏が幕府に對する政略上造林したものと傳へてゐる。

富山以東の地は立山、劍岳などいはゆる日本北アルプスの高山峻嶺その南東に連互し、汽車は多く海岸に近く走る。泊から境川を渡ると越後の國で、日本アルプス、飛騨山脈の一脈が日本海中に突出し、纔に崖下の汀際に一路を通ずる。

これが有名な親不知、子不知の險で、鐵道はこの絶壁を開鑿して敷設し、市振から親不知を経て青海に至る間七大隧道がある。怒濤は眼下に咆哮し、水天粍の彼方には佐渡ヶ島と能登半島とが相對してゐる。姫川を渡れば糸魚川、姫川の橋上からは左は直ちに日本海の海光あり、右は飛騨山脈の重疊するを見、眺望雄大である。能生驛附近海中には數箇の巨巖が横はり、海風に壓せられた松樹の姿態が面白

い。かくて汽車は名立川を渡つて鳥首崎を横斷し、郷津隧道を出で、右に春日山城址を仰ぎつゝ直江津に着く。

## 北陸本線

米原 (まいばら)

北陸本線起點。

長濱 (ながはま)

琵琶湖東第一の商工地、古來濱縮緬の産地として知られ又天鷲絨、蚊帳の産出も相當ある。縮緬の六分は京都に行つて、友禪染となり、天鷲絨は京都、大阪、神戸、名古屋方面へ捌かれて主に輸出せられ蚊帳は東京を経て全國に賣出されてゐる。

旅館 静養館、井筒屋。

▼竹生鳥詣 驛から約一三軒二、定期遊覽船賃片道四十五錢、かへりは大津へ出るがよい。(東海道本

線大津驛参照)

木ノ本 (きのもと)

▼淨信寺 東一〇〇米、一

名木ノ本地藏。

▼賤ヶ嶽と余呉湖

西約三軒餘自動車二十錢。秀吉

が柴田勝家を破つた古戰場として、又七本槍の勇士が晴の舞臺としての賤ヶ嶽は、南は琵琶湖、北は余呉湖に臨み、兩湖の隔障を成してゐる。賤ヶ嶽登山の上、余呉湖の風光を愛で、中ノ郷に出るは面白い散策である。

敦賀 (つるが)

四八軒五 米原から約一時間

半、もと酒井氏一萬石の城下、裏日本の良港、歐亞國際交通路の要衝を成し浦鹽斯德へは毎週一回連絡船があり、その發着當日は東京から之に接續する急行旅客列車を運轉する。又北朝鮮各港との最捷徑路として重きをなし、元山、雄基、城津、清津へは毎

月五回の定期航路がある。昭和三年度貿易額輸入五百七十二萬圓、輸出三百萬圓。地は三面山を繞らして海山の形勝に富んでゐる。▼官幣大社氣比神宮 西北約一軒半、自動車二十錢。伊奢沙別命外六神を祀る、越前國一ノ宮、高さ一〇米餘の大鳥居及本殿は國寶になつてゐる。▼官幣中社金崎宮、約三軒、自動車二十錢。後醍醐天皇の皇子尊良、恒良の兩親王を祀る。境内には櫻が多く敦賀灣一帶の風光を一眸の下に見る。新田義貞が兩親王を奉じて孤軍奮闘した金崎城址は後方の山頂にある。▼氣比の松原 (松原公園) 西約三軒、自動車二十五錢。水戸の志士武田耕雲齋等を祀つた松原神社がある。以上の名所廻遊自動車、貸切三圓五十錢、約二時間を要する。辨天島と常宮様には船で行く方が面白い、船賃約二圓、夏季は遊覽船四十錢、自動車貸切三人乗往復

光を賞し久々子濱に上陸久々子辨天を拜んで河原市驛に出るがよい、約半日の行樂である。

小 濱 (をばま) 四九軒五 若狭第一の都會

でもと酒井氏十萬三千石の城下、山海の風光に富む。▼小濱公園 西約一軒五、梅田雲濱の碑、佐久間艇長の銅像がある。▼小濱城址 東北約二軒。

▼外面 (蘇洞門) は海上北一二軒、モーターボート、八人乗、貸切十圓、遊覽時間約五時間、外洋に面して斷崖八軒の間、飛瀑奇巖、起伏亂立、洞穴、崎嶇などで稀に見る景勝を呈してゐる。

旅館 (小濱) 青濱館、世組屋。  
名産 若狭塗、若狭鯛、若狭鱈。

若狭高濱 (わかさたかはま) ▼海水浴場 北六六〇米、北浦、南浦の二つに分れ、何れも海山の景致佳。▼城山八穴の奇勝 北約一軒半。

二圓五十錢。  
旅館 熊谷ホテル、具足屋、大黒屋、松屋。  
名物 求肥昆布、豆落雁、昆布菓子。

## 小 濱 線

敦賀から西に分岐し、新舞鶴に於て舞鶴線と接続する。

河原市 (かはらいち) ▼久々子海岸 約二軒 海水浴場。

三方 (みかた) ▼三方湖 北八八〇米、三方、水月、久々子の三湖相連つて風景がよい。遊覽船の設備があり、鮎、鯉がよく釣れる。

遊覽には先づ驛の北三三〇米の三方石觀音に詣り三方、水月湖を経、浦見川の勝を尋ね久々子湖に行く、そこから早瀬港に出て小舟で日本海の風

松尾寺 (まつをでら) ▼松尾寺 東北約三軒

西國三十三所第二十九番札所、若狭富士の稱がある青葉山の中腹にある。山頂には奥ノ院があり、そこからは舞鶴灣の俯瞰がよい。

新舞鶴 (しんまひづる) 舞鶴線分岐點。

新保 (しんぼ) ▼新保鑛泉 東北約三軒。

旅館 桑野屋。

今 庄 (いまじやう) ▼夜叉ヶ岳 東南約二〇軒、越美の國境にあり海拔九〇〇米、山頂の夜叉ヶ池は日野川の源、古來雨乞の靈場として名がある。

武 生 (たけふ) 南越鐵道、福武電鐵接続點。  
武生町は古の府中で前田氏もこゝにゐた。越前蚊帳、打刃物、製紙の産地、縣下で福井に次ぐ商工業地である。

旅館 柳屋、赤星。

南越鐵道 武生、戸ノ口間一四杆三。五分市(ごぶいち) ▼毫攝寺 驛附近、眞宗出雲路派の本山。粟田部(あはたべ) ▼花筐公園 驛附近、繼體天皇に因み深い櫻の名所。

福武電氣鐵道 武生新、福井新間 一八杆二。鯖江 (さばえ) 鯖浦電鐵接續點。

▼誠照寺 驛附近眞宗誠照寺派の本山。▼證誠寺 驛附近、眞宗山元派の本山。▼縣社船津神社 南六六〇米。

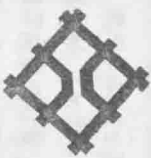
旅館 角屋。

鯖浦鐵道 鯖江、織田間一九杆二。織田(をだ)

▼四ヶ浦 西八杆、古い漁場で越前蟹の本場、そこには海岸美もある。旅館 小長谷、笹屋。

福井 (ふくい) 一〇九杆八 米原から約三時間半、足羽川の流に沿うた越前平野の中心地である。

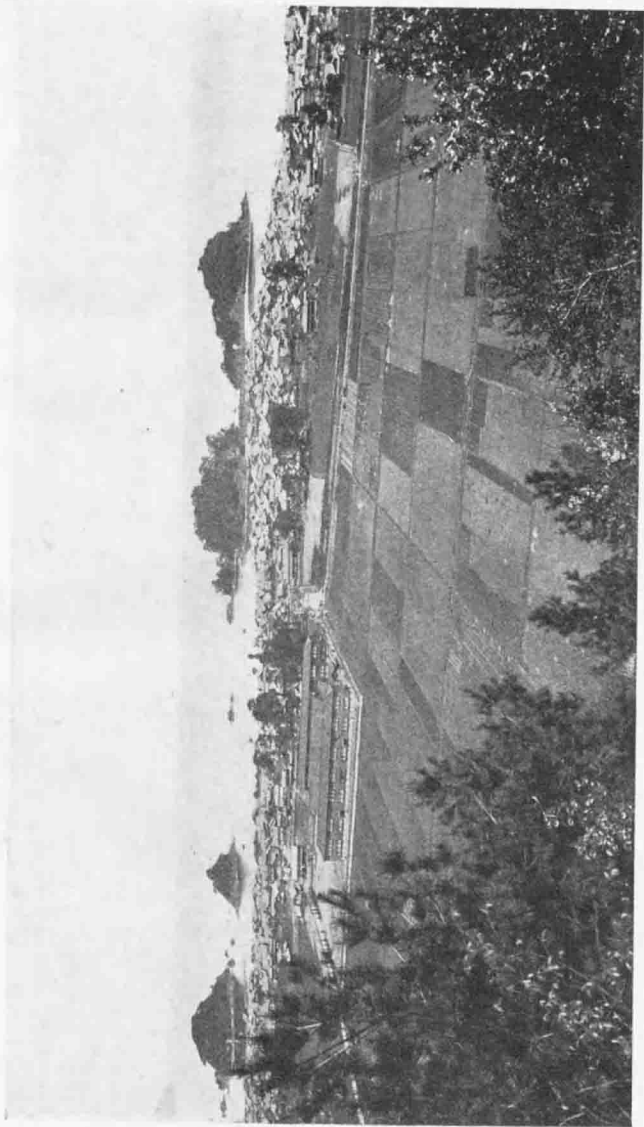
昔は「北ノ庄」といつて柴田勝家の據つたところ、松平氏がこゝに封を受けてから現稱に改め北陸雄藩



三十二萬石の城下として知られてゐた。人口六萬七百餘(三、一二調) 羽二重、絹紬、佛蘭西縮緬、富士絹、人造絹絲などの産額は全國中遙かに他を凌ぐものがあり、

その八割は輸出品である。織物工場は市の内外に散在してゐる。▼福井城址 西三三〇米、城内に藩祖を祀つた佐住枝神社がある。▼足羽山公園 西南約一杆半、市街を一眸の下にし、遠く三國港頭まで見渡される。▼別格官幣社藤島神社 約二杆、足羽山公園の東面にある。新田義貞及其の一族を祀る。尙その東麓善慶寺には橋本左内の碑がある。▼專照寺(眞宗三門徒派の本山) 西南二杆。





旅館 名和屋、幾代、花月。

名物 雲丹、蟹罐詰、羽二重餅、蟹、絹織物。

**永平寺詣** 東北一六軒、自動車の便もあるが、福井から大野三番まで、三六軒七の間開通してゐる越前電鐵によるとその永平寺口驛から岐れる永平寺鐵道で永平寺門前(五軒八)まで行く。そこから約半軒、寺は曹洞宗の大本山で、枯木寒巖の色、鳥聲風籟の音、自ら俗塵を遠く離れてゐる。全國に一萬五千の末寺をもつだけあつて堂塔伽藍莊嚴整然。信徒は寺内に宿泊を請ふ便宜があり、一夜に三千人を收容するといふ。

▼六呂師スキー場 越前電鐵の六呂師口から東四軒、廣さ約三三、〇〇〇アール、積雪約二米に及び北陸第一のスキー場と稱せられるが宿泊は附近の民家による外はない。福井からは蘆原温泉三國町へ通

ずる三國蘆原電鐵もある。

福井縣廳は福井市にあつて、越前、若狹兩國を管轄する。縣の西半は若狹灣に臨み、敦賀、小濱の兩港があり、前者は日本海岸屈指の良港である。その一帯が日本海に面するので海産物に富む。東半は主として九頭龍川の流域に沿ひ産業が盛んで、代表物産として年額一億圓に達する絹織物があり、特に福井は羽二重機業の中心地として全國的に知られてゐる。

**丸 岡** (まるをか) 丸岡鐵道接續點。

もと有馬氏五萬石の城下、越前平野東部に於ける商工業の中心をなし絹織物の産地である。

**丸岡鐵道** 丸岡、本丸岡間四軒二。本丸岡(ほ

んまるをか) ▼霞ヶ城址 六六〇米、天正年間柴田勝家の甥勝豊が朝倉氏の豊原城を移したもので三層天主閣上からの展望が広い。

金津 (かなつ) 一二七軒六 三國線分岐點。

別に永平寺電鐵がこの驛に接続して丸岡、永平寺口を経て永平寺門前まで行く。金澤、直江津方面からの永平寺詣りはこの電車によるが便利である。

三國線

金澤から蘆原を経て三國港に行く。

蘆原 (あはら) ▼蘆原温泉 驛前、主に京阪及名古屋方面からの浴客で榮えてゐる。

旅館 開化亭、紅屋、鶴屋、灰屋、室吉。

三國港 (みくにみなと) 三國小女郎で古い湊

情調の濃い三國は、九頭龍川口の港で今は漁場と

大聖寺 (たいしやうじ) もと前田氏十萬石の城下。こゝの絹織物は一千二百餘年の歴史をもち加賀

錦として好評を博してゐる。羽二重、絹、斜子、琥珀傘地、洋服裏地、帯地などの年産額は一千三百萬圓に達する。

動橋 ((いぶりばし))

粟津 (あはづ) 以上二驛及この驛とも温泉電軌の接続點で山中、山代、粟津、片山津への浴客下車驛である。

北陸湯めぐり 北陸の温泉といへば誰でもが、

山中、山代、片山津、粟津を口にするほど、北陸路は著名な温泉に恵まれてゐる。殊に最近交通機關が整つたので、以上の外に蘆原、和倉、宇奈月、小川などの諸温泉を加へて比較的短時日に、湯めぐりの楽しい旅が出来る。

して榮えてゐる。驛から約半軒には海水浴の適地がある。日本海の雄大な展望を控へて、海岸は遠浅で穏かである。東尋坊の奇勝は西北約四軒、自動車二十五錢、夏季中は驛の側からモーターボートが行く、五十錢。怪石海中に亂立して海波躍る中に海女が活躍するのも趣がある。

旅館 望洋樓。

名物 雲丹、蟹、わかめ。

三國節 (越前)

三國イ、みくウにイミオ、通上奴ア馬ア鹿アオ帯の、幅アほうじオ、あるウまアーちイをオ帯の、はアアはアほオーじ、あるウ町を。

酒は酒屋で 濃い茶は茶屋で

三國小女郎は 松ヶ下。

岩が屏風か 屏風が岩か

海女の口笛 東尋坊。

然も是等の温泉は川を控へ、溪谷に沿ひ、湖水に接し、或は海に臨むなど、夫々に異つた風致があると共に、特有の情調があつて興趣をそゝる。

▼山中 黒谷川の清流を控へ、蟋蟀橋の景勝がある「脚氣山中」といはれる程に脚氣に效くといふ、菊ノ湯、葦ノ湯、白鷺ノ湯の三つの共同浴場があり、旅館には内湯は無いが、こゝでは外の湯への漫步に情緒があるとされてゐる。

旅館 吉野屋、五明館、三谷屋、柿屋、俵屋。名物 漆器。

山中節 (加賀)

加賀の山中おそろしきこよ

夜の夜中にシンが出る。

送りませうか送られませうか

せめて二天の橋までも。

浴衣肩にかけ戸板にもたれ

足でろの字を書くわいな。

▼山代 東は春日山や薬師山などの丘陵を負ひ、他の三面は展けて一帯の野である。リウマチスや中風によい。九谷焼の窯元である。

旅館 あらや、くらや、大野屋、吉田屋。

山代温泉館 (加賀)

一夜妻でも、わしや焼きます。

アリヤサー、コリヤサー、ヨイトナ。

こゝに九谷の窯がある。

アリヤサー、コリヤサー、ヨイトナ サノサ

わたしや山代温泉をたち

ぬしへまこもあたゝかい。

▼片山津 柴山湯に臨み静寂な水光美に親しめる。

胃腸病、糖尿病などによい。芭蕉の「あなむざん兜の下のさりぎりす」で、史的回想の濃かな齋藤實盛が白髪を染めて戦死した所はこの附近である。

旅館 矢田屋、森本、湯ノ出、東野、鹿野屋。

片山津温泉館 (加賀)

アーアー

忘れしやアナーなア、片山津ウみちを

ひがしや湖水で、西や薬師。

脚氣山中、「かさ」栗津、樂にふるなら山代の湯。

山代茸狩、栗津は小島、鮎は山中でよく釣れる

鳴を打つなら片山津。

▼栗津 東方に日本海を望む養老公園を負うて、風光がよい。呼吸器病、皮膚病などに效く。温泉から約二軒、電車によれば紅葉で名高い那谷寺がある。庭に古風な木石の風致があり、浴後、恰好の曳杖地である。

旅館 法師、坂田、山下、嘉宮。

大聖寺からは山中へ電車二十八銭、動橋からは山代へ電車十六銭、別に自動車の便もある。片山津へ、

電車十三銭、別に自動車あり、粟津線から粟津へ電車十一銭、別に自動車あり、以上電車は温泉から温泉へと接續運轉をしてゐるから便利である。

吉崎御坊から團原へ 吉崎御坊は蓮如上人駐錫布

教の址で嫁威肉付の面で知られ、東西兩本願寺の別院があり、北潟の入江に臨んでゐる。大聖寺からは西南約六軒自動車があり、そこから舟で小牧まで渡

つて蘆原温泉へも出られる。小牧、蘆原間約三軒。

小松 (こまつ) 尾小屋鐵道及白山電鐵接續點

前者は尾小屋まで一六軒七。尾小屋鑛山の銅を輸送する。後者は遊泉寺まで六軒。▼佛御前の墓 東約八軒、佛御前の生地、平相國に捨てられた祇王の後を追うて佛門に入りこゝで果てたといふ。▼安宅の

關址 西北四軒、勸進帳で名高い安宅の關は安宅町

んどその址が無い。小松地方は古來疊表の産地で小松表の名は廣く知られてゐる。

寺 井 (てらゐ) 能美電鐵接續點。同線は新寺

井から新鶴來まで一五軒八、辰ノ口驛に辰ノ口鑛泉がある、又白山登山者はこの線によつても行く。

小舞子 (こまひこ) 驛は白沙青松の中にあり、

毎年五月一日から九月十五日まで假驛を開いて遊覽者及海水浴客の便を圖つてゐる。

松任 (まつたう) 金澤電氣軌道接續點。松任

金澤間八軒七。驛附近は加賀米の主産地である。

▼聖興寺 驛附近、寺内に俳人加賀の千代女の墓がある。

名物 あんころ餅。

西金澤 (にしかなざは) こゝから鶴來まで一一

軒七、金澤まで二軒九の金澤電氣軌道がある。

旅館 安藤、室嘉、加藤平。

### 白山登山

鶴來まで軌道賃金三十四錢、鶴來驛から東南約一軒半には國幣中社白山比咩神社がある。

鶴來から金名鐵道は神社前を過ぎ白山下まで一八軒八賃五十三錢、白山下驛から白峯まで二〇軒、自動車あり約一時間、白峯から徒歩一〇軒で白山温泉に至る。同温泉は登山の根據地で、温泉から白山頂上まで新舊の二路があり、新道は一二軒、舊道は五軒、新道は樂ではあるが舊道ほど變化に富んでゐない。白山は加賀、飛騨、越前の三國境上に聳える山で、海拔二、七〇二米、古來富士、立山と共に日本の三名山として信仰の登山者多く、大汝、劍ヶ峯、別山、三ノ峯などの峯を抱く高峯を御前といふ。

彌陀ヶ原附近には黒百合、野鳳仙花などの高山植物亂れ咲き、雷鳥もゐる、室堂からは火山岩の磊々

たる間を攀ぢて絶頂白山本宮に達する。頂上に立てば加越能美飛の諸州を眼下に見晴す、登山期七月十八日から九月一日まで。

▼岩間温泉 白山下から約二軒。旅館 山崎。

▼中宮温泉 白山下から約一八軒。旅館 木戸、西山。

金 澤 (かなざは) 一八六軒六 淺野川電鐵、

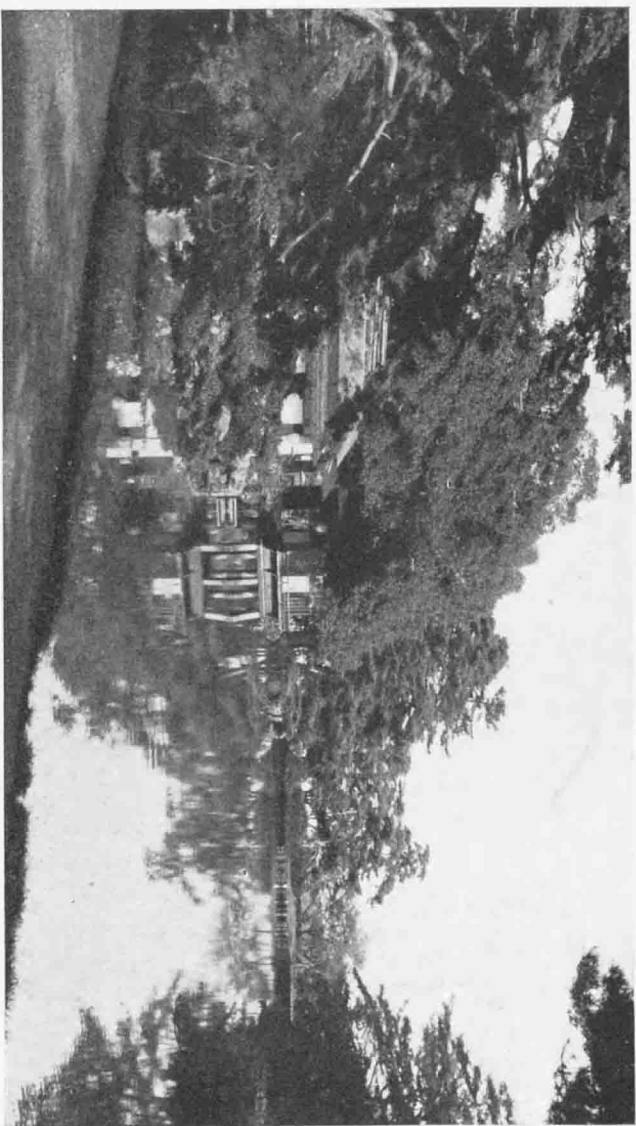
金石電鐵接続點。米原から約六時間。



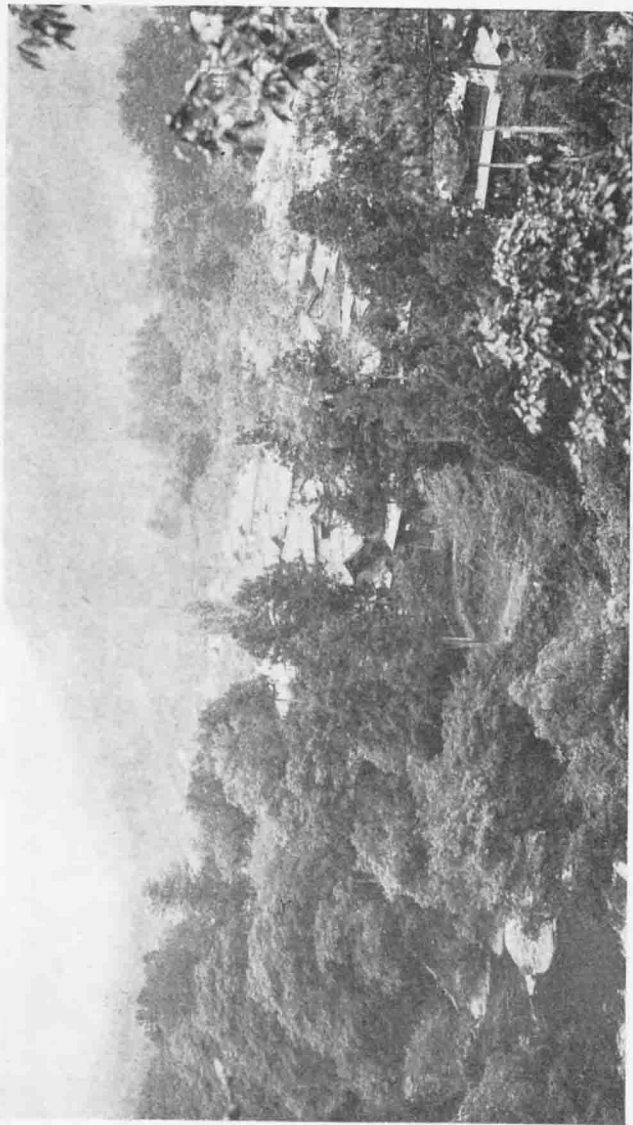
淺野川電鐵は須崎へ六軒一、金石電鐵は大野港へ七軒四。

金澤はもと前田氏百萬石の城下で犀川、淺野川の流域を占め外國貿易の率先者、錢屋五兵衛

の居住した金石港を西北に控へ、人口十五萬六千(三、一二調)北國第一の都會である。







産物には羽二重を始め、絹織物、箔、漆器、銅器陶器を出し、商業活潑である。羽二重は平羽二重が主で、紋羽二重、綾羽二重、縞羽二重などがあり、その他絹紬、富士絹、絹、紗などもあり、多くは輸出向として製織される。陶器は九谷焼として知られ、文政年間（約一〇〇年前）の創製で盃、湯呑を主とし、その他茶器、香爐、食器などが出る。箔は金、銀、銅、洋箔の四種があり、全國生産の七割五分を占め内地では京都、大阪、名古屋、東京方面へ送られ外国にも輸出する。

市の中央に一丘陵の連立してゐるのは即ち舊城址で、又有名な兼六公園のある所である。園は驛の東南二軒、電車七錢、日本三公園の一として知られてゐる。文政元年（約一〇〇年前）前田齋廣の經營した所で、兼六の名は、宏大、幽邃、人力、蒼古、水

泉、眺望の六勝を兼有してゐるといふので、松平樂翁が命名したものである。園に隣れる樓閣は、曾て藩主夫人の隠栖に充てた成巽閣で、結構甚だ華麗である。▼卯辰山公園 東約二軒、金澤城と相對してゐる金澤の市街から、日本海、河北潟など、皆一眸の中に集まる。▼野田山 南四軒、藩祖利家以下累代の墳墓がある。▼別格官幣社尾山神社 東南約一軒餘、加賀の舊藩祖前田利家を祀る。社地は舊前田家の別第で、館を金谷といひ、その風景を皆樂器に擬り、泉水築山を設けてある。▼西本願寺別院 東約半軒。▼東本願寺別院 東約一軒。▼天徳院（曹洞宗）東南四軒、前田利常その室天徳院のために創建。▼第九師團司令部 東南約一軒半、舊城内にある、その他石川縣廳、市役所、第四高等學校、金澤高等工業學校、金澤醫科大學、商品陳列所など舊城

近くに散在してゐる。

▼湯涌温泉 東南一六軒、市内石引町まで電車、それから自動車がある。

旅館(市内) 源圓、藤屋、坂井屋、大浦屋、宮保、

茶屋。

名物 御所落雁、梅精、胡桃漬、深山の雪、鮎の佃煮、錢五煎餅、陶磁器、絹織物、漆器。

石川縣鹽は金澤市にあつて、加賀、能登の二國を管轄する。東南は越前、飛騨、越中に界し、東北は海に突出して能登半島を成し七尾の良港を抱き北西一帯は日本海に面してゐる。山岳が多く白山はその尤なるものである。

産物としては、輪島、山中の漆器、金澤地方の九谷燒並羽二重、能登の上布、大聖寺の絹織

物などがある。米は加賀米として知られ、出荷が早く價格の廉いのと産額の大量なるを特徴とされてゐる、又魚類も多い。

森本(もりもと) ▼深谷鐵泉 約三軒、自動車の便がある。

旅館 石屋、清水、白銀屋。

津幡(つばた) 七尾線分岐點。

七 尾 線

この線は津幡から北に岐れて能登半島まで七〇軒六。

本津幡(ほんつばた) ▼河北潟 西約三軒餘。

横山(よこやま) ▼木津桃林 驛附近一帯

花期四月中旬。

高松(たかまつ) ▼海水浴場 八八〇米。

寶達(はうたつ) ▼寶達山 東八軒、能登

第一の高峯、海拔六八〇米、眺望美に富み頂上に寶達権現を祀る、山中藥草が多い。▼末森城址

東北約三軒。▼盤城別命、盤城別王の御陵 西三三〇米。

羽咋(はくひ) 能登鐵道接續點。

旅館 柳亭、林又。

能登鐵道 羽咋、三明間二五軒四。能登一ノ宮(のといちのみや) ▼國幣大社氣多神社 東

二二〇米。別に寶達驛からは北西四軒、自動車あり、祭神大己貴大神。後に鬱蒼たる森林を負ふ。攝社若宮神社の社殿は國寶に指定され、什

寶の中、後奈良天皇の宸翰も國寶となつてゐる、例祭四月三日、なほ平國祭、御饗祭、鶺鴒祭

などがある。柴垣(しばがき) 柴垣海濱前に長手島が浮び、風光よく海水浴場となつてゐる。

▼妙成寺(日蓮宗) 東約一軒 建造物の中國寶九棟、その他國寶二點。三明(さんみやう) こ

ゝから行く櫛比村は大本山鶴見總持寺の元地である、總持寺支坊がある。

金丸(かねまる) ▼永光寺 南四軒、曹洞

宗の巨剎。

夏川(よしかは) ▼石動山 東約九軒、海拔五〇八米頂上に伊須流岐比古神社がある。

七尾(なな) 五四軒一 七尾港は日本海岸の良港、輪島町で産する輪島塗はこゝに集められ、更に全國各地に送出される。▼七尾城址 東

南約四軒、上杉謙信の秀詠「鷗山傳能州景」はこゝで吟じたもので眺望が好い。▼小丸山城址 西約半

秆、前田利家が七尾城を移した處。

旅館 惠比壽屋、小山屋。

名物 大豆餡。

和倉 (わくら)

五九秆五 ▼和倉温泉 二

秆、自動車十六錢。温泉は能登灣辨天崎の尖端にあつて、海水浴にも適する。前面に屏風崎が横はり机島、種ヶ島、猿島を控へて風光よく、舟遊に興が多い。

旅館 和歌崎、旭屋、加賀屋、銀水、多田屋、直木館。

九十九灣めぐり

海上約三八秆、小木港まで汽船、二等一圓六十四錢、三等一圓二十四錢、約三

時間を要し、一日二回相互往復してゐる。小木港は山陰美保關に似た處で、町の背後に九十九灣の絶景が秘められてゐる。徒歩約三三〇米、舟便約

四四〇米で達する。灣は東西約一秆以内、南北約

一秆半の小灣ではあるが、海岸線は約四秆あると

いふから屈曲の度も想像に餘りある。俗に九十九

曲りと稱し、灣名も之に起因したものである。

灣口に日和山といふ展望臺がある。こゝからは左

方に灣を俯瞰し、右方に日本海の大海原を一眸に收め、灣の中央に蓬萊島が浮んでゐる。

旅館 石岡。

俱利伽羅 (くりから) 壽永二年(約七五〇年前)

源義仲が火牛の奇計で平氏の大軍を破つた俱利伽羅峠は驛の近くにある。

石動 (いするぎ) 加越鐵道接續點。

加越鐵道 石動、青島間一九秆五。福野(ふくの)

▼安居寺(眞宗) 二秆、安居山の中腹にある。境内に長慶天皇御陵傳説地がある。井波(ゐ

から製造された古い歴史を持ち全国的に名譽を博してゐる。

市内で見るときは櫻の馬場から國幣中社射水神社のある舊城址、高岡公園、曹洞宗の巨利瑞龍寺の古建築、大杉大明神として祀られる稀有の古木、七本杉、物産陳列所などである。

旅館 木津樓、梅松園、春照亭、高岡ホテル、大昌樓、高岡館。

中 越 線

高岡から南へ城端まで行つてゐる。

油田 (あぶらでん) ▼千光寺(眞宗) 東四

秆、桓武天皇以來の勸願所であるといふ。

出町 (でまち) 麻織物の産地として七百餘

年の歴史をもち今では蚊帳、洋服芯地、疊縁など



なみ) ▼瑞泉寺(眞言宗大谷派別院)約一秆、傳運慶作と稱する阿彌陀如來を本尊とする。▼鳥越、湯谷、山田、大牧、祖山の諸温泉 青島町の南四秆乃至一二秆の處に散在する。

補岡 (ふくをか) ▼西明寺(眞宗) 四秆、最明寺入道北條時頼が諸國行脚の折、來遊したと傳へられる。

高岡 (たかをか) 二二七秆五 中越、氷見兩線の分岐點。米原から約七時間、北陸屈指の都會、人口五萬一千(四、三調)を有し近く伏木港を控へ商

工業が盛んである。漆器、銅器、鉄鐵器、綿絲、友禪、瑛瑯鐵器を産する。殊に銅製の火鉢、瓶類、花筒並洗鐵製の鍋、釜、鐵瓶などは寶曆年間(約一八〇年前)

を産する。  
城端（じやうはな） ▼善徳寺 眞宗大谷派の別格別院。

氷見線

高岡から北へ伏木、雨晴、島尾を経て氷見まで行つてゐる。

伏木（ふしき） 富山灣の西南隅にある良港で、昭和三年度の貿易額輸入八百七萬四千圓、輸出四十五萬圓。▼勝興寺 町の西南端にあり、寺域は昔の國府城の址である。▼二上山 西八軒、高さ三〇〇米に滿たぬ一峰であるが、山容秀麗、古歌の名所である。

二上の山にこもれるほど、ぎす  
今もななかぬか君にきかせむ

大作家持

新湊線

氷見線能町から東へ新湊まで行つてゐる。

新湊（しんみなと） 滿俺鐵、珪素鐵、銑鐵などの産があり、東京、神戸、八幡（九州）方面に送出される。附近の沿海は漁業が盛んである。

▼放生津湯、放生津八幡 共に驛附近。

富山（とやま） 二四六軒三 飛越線分岐點、

富山鐵道、富山縣營鐵道、富岩鐵道、越中鐵道接續點。

米原から約七時間半、もと前

田氏支藩の地、遠く日本アルプ

スの連峰を負ひ、神通川に接し、

越中平野の中央にあり、近く岩

瀬港を控へてゐる。人口八萬五



雨晴（あまはらし） ▼雨舞の岩 驛附近の海岸、源義經主従東國に落行くときこゝの洞中に雨を避けたので、この名があると傳ふ。一帯の風光が佳い。

島尾（しまを） ▼島尾遊園地 驛附近、遊園地は鐵道省經營で能登の翠巒を望む白沙青松の地にあり、南越中の佳境である。

氷見（ひみ） 附近沿海から獲れる鱈及鱈は夥しい數に上り、最近造り出された鱈櫻干は評判がよい。▼十二町瀉 湖の東は細溝で富山灣に通じ、氷見の町は灣と湖との間の砂濱にある。湖中の鬼蓮は天然記念物に指定されてゐる。▼唐島 西北約一軒の海上、觀賞によい。▼大境洞窟 北二〇軒、白山神社境内にあり、太古人類穴居の跡と傳へられてゐる。

千（四、三調）この市の賣藥はその名四方に聞えてどんな田舎に行つても、反魂丹や、熊膽丸、感應丸などの名を知らぬものなく、年産額一千二百餘萬圓に上り、遠くは支那、西伯利亞、印度、南洋、布哇などへも輸出してゐる。その他ラミー紡績、絹織物、漆器、清涼簾などがあり、尙有數の米の集散地である。全國津々浦々から海外まで知られてゐる賣藥は天和六年（約二五〇年前）富山二代の藩主正甫が慈善的に病者を救療するため斯業の隆盛を圖つたのに始まり、今では行商人約九千人に及んでゐる。

市内で見物すべきものは富山城址、吳羽山公園、妙國寺（富山賣藥の創製者醫師淨閑の墓あり）、神通川御獵場（鮎、蛙、鱒の名産地）、廣貫堂製藥工場などである。

旅館 富山ホテル、富山館、舟山館、高松屋、北越館。

**富山鐵道** 驛前から堀川新を經、神通川上流の景勝地にして山國飛驒の關門たる笹津まで一七軒四開通して居り、途中大久保驛から五五〇米に合田鑛泉、笹津驛から二二〇米に春日鑛泉がある。

**富山縣驛鐵道** 南富山から岩峯寺で滑川から來る立山鐵道と接し、千垣まで一九軒五開通し、富山からの立山登山道となつてゐる。

**富岩鐵道** 岩瀬港まで八軒二、途中に富山高等學校がある。

**越中鐵道** 聯隊前から打出濱まで八軒五。

**立山登山** 東南六四軒、古來富士、白山と共に日本三名山と數へられる信仰的登山の山で、登山は往復三、四日を要する。富山からは市内電車で堀川新(南富山)に行き、そこから富山鐵道によつて

このあたり無數の高山植物があり、千紫萬紅の美を現出する、名高い地獄谷は堂の北約一軒、熱氣常に噴出して地底沸々たる響を聞く、淨土山を經て絶頂に登ると天手力雄尊及伊弉諾尊を祀る雄山神社あり海拔三、〇一〇米、信越濃飛その他日本中部に於けるあらゆる高峯を望み、天際遙に富嶽を仰ぐ、殊に日出の大觀は雄大極まりない。千垣から彌陀ヶ原まで一八軒、六時間、室堂まで三二軒、九時間、頂上まで三六軒、十時間で行ける。歸路は淨土山から五色ヶ原を經るか、直接淨土山の肩から立山温泉に下り一泊し常願寺川の豁谷を辿つて藤橋に出るがよい登山期は七月二十五日から、九月十日まで。立山温泉旅館 湯元。

さんさい節 (越中)  
已らの兒まにたぐり買うて貰うて

千垣に行く、南富山(堀川新)から千垣まで四十九錢。滑川驛から立山鐵道で行く人は立山(岩峯寺)で縣管線に乘換へねばならぬ。滑川、立山間二〇軒九、五十二錢。千垣から二軒に岩峯寺があり尙六軒で藤橋に達する。共に立山登山の準備地である。藤橋から急峻な材木坂を登り、ブナ坂附近のブナ的美林を過ぎ、右に直下約四〇〇米の稱名瀧を見て、而積約四七萬アル(三平方里)の廣潤な彌陀ヶ原を經て海拔二、四〇〇米の室堂に着く。この途中にブナ坂、弘法追分などの小屋がある。室堂及この小屋附近一帯の彌陀ヶ原は十一月から六月まで三米餘の積雪があり、世界的スキー場として名高い瑞西サンモリッツスキー場に譲らないといはれてゐる。

室堂は二百人を宿泊させることが出来る、その傍には高山氣象觀測所があり電話も架せられてある。

三重で短かし二重で長し、  
兎角氣の巻このたぐり

サーイサンサイ、ヨンサノヨヨナイ。

已らの兒まに雪駄買うてもらうて

何處で穿かうか、ちやら〜と

サーイサンサイ、ヨンサノヨヨナイ。

富山縣廳は富山市にあつて、越中國を管轄する。東南は日本アルプス山脈聳え西は能登半島突出し、北は日本海に面し良港伏木を抱く、縣内に黒部、常願寺、神通、庄、早月の五川が灌漑し、越中の大平野を成してゐる。産物としては米、賣藥は既に定評があり、その外高岡の銅器、滑川の籐表、三日市地方の黒部西瓜、出町の麻織物などは地方色の濃かなものとして名聲がある。沿海地方からは大量の漁獲がある。

飛越線

この線は將來高山を経て岐阜に通ずるもので今  
笹津まで開通してゐる。

西富山 (にしとやま)

▼磯部の櫻目榎 東北

三軒餘、天正年間(約三六〇年前)佐々成政の愛妾  
早百合姫に由緒深い古木。▼稲田城趾(東北半軒)

城山城址(西南三軒半)共に佐々成政の居城であ  
つたところ。

速星 (はやほし)

▼大日本人造肥料會社富

山工場 驛附近。

千里 (ちさと)

▼常樂寺(眞言宗) 西一軒、

文武天皇の大寶二年(約一、二二八年前)千坊建立  
の一坊で觀音堂に安置する十一面觀音(行基作)及  
同聖觀音(佛工春日作)は共に國寶である。▼各願

旅館 湯本。

笹津 (ささづ)

▼上行寺(法華宗) 南約

四軒、畠山重忠が難を避けてこの地に來り、一寺  
を建てたのが是であるといはれてゐる。

▼神通川の鮎 三〇〇米、この川で獲れる鮎は  
味のよいので知られてゐる。驛附近及その上流一

帯の川岸は紅葉によい。▼天狗平の化石層 約四  
軒、自動車あり、第三紀化石包含層で二枚貝、卷

貝類のものが多く天然記念物に指定されてゐる。  
飛驒へ 飛驒街道は驛前から神通川の右岸に沿

うて南行し、船津、古河、高山方面へ來往する者  
が多く、乗合自動車も通つてゐる。

おわら 節 (越中)

おわら おわらはごこでも はやる

わけて 八尾は オワラ なははやる。

北 陸 線

寺(眞言宗) 西北二軒餘、大寶元年佛性上人(文

武天皇の九宮)が勅命を奉じて建立せられた勅願  
所、當時は寺坊三千、比叡山に對して北叡山と號

してゐたがその後二度兵火にかゝり今では昔の佛  
を止めてゐない。

越中八尾 (えつちうやつを)

民謠小原節の發

祥地で小原節が盛んである。▼聞名寺(眞言宗)

南一軒半。伽藍宏壯、古來火災に罹らず多くの古  
文書を藏する。織田信長の制札、齊藤一鶴の寄進

狀、豊臣秀吉の御朱印などがある。▼本法寺(法  
華宗) 南二軒餘、所藏の絹本着色法華經曼荼羅圖

二十一幅は國寶である。

▼高熊鏡泉 約二七軒、神經病及婦人病によい。

▼山田溫泉 八軒、自動車あり、湧出量多く胃腸  
病、花柳病、皮膚病などによい。

城ヶ山から 虹橋かける

思ひ有磯の オワラ 屋敷棧。

滑川 (なめりかは)

立山鐵道接續點。

當驛から魚津の海岸は世界に有名な螢烏賊の産地  
である。漁期は四月頃から六月頃まで、網を引上げ

るは毎夜十時前後である。その數百萬の大群が次第  
に網の迫るに伴ひ海中一面燦として宛然イルミネー

ションのやうな美觀を呈する。

旅館 清水花壇。

名物 辨慶海老、烏賊照作。

螢烏賊の唄  
さても辛氣な螢烏賊なんの風火にもゆるやら  
牡丹に唐獅子、ドッコイドッコイドッコイシヨ  
アーアーアー~~~~こいかえ。

立山鐵道 滑川、立山間二〇軒九。

大岩口 (おほいはくち) ▼大岩山日石寺

(眞言宗) 六軒、木立深い亂岩の間にあり、飛瀑多く、茶亭、旅館その間にある。日石寺の不動明王は靈顯著しと稱せられ、夏季の如き殊に參詣者で雜開する。上市(かみいち) ▼眼目山立山寺(まなこやまたちやまのこうじ) (曹洞宗) 東四軒、陰曆七月十三日夜、墓場の松の木に龍神に獻る龍燈を點ずる奇習がある。

魚津(うづ) 滑川からこの驛附近の海上は盛氣樓が現はれるので知られてゐる。天氣靜穩にして風無く、氣温急に上昇して蒸熱い日に、海上遙に水面に接して一帶間隔の映像が髮髯として變幻出沒する。初めて之を見るものは能く實際の地物と識別することが困難である。出現の時刻は多くは午後一、二時頃でその前後は次第に少い。

夏季の鯛網と水族館は有名である。

旅館 東勝亭。

名物 魚津鯛。

三日市(みつかいち) 黒部鐵道接續點。

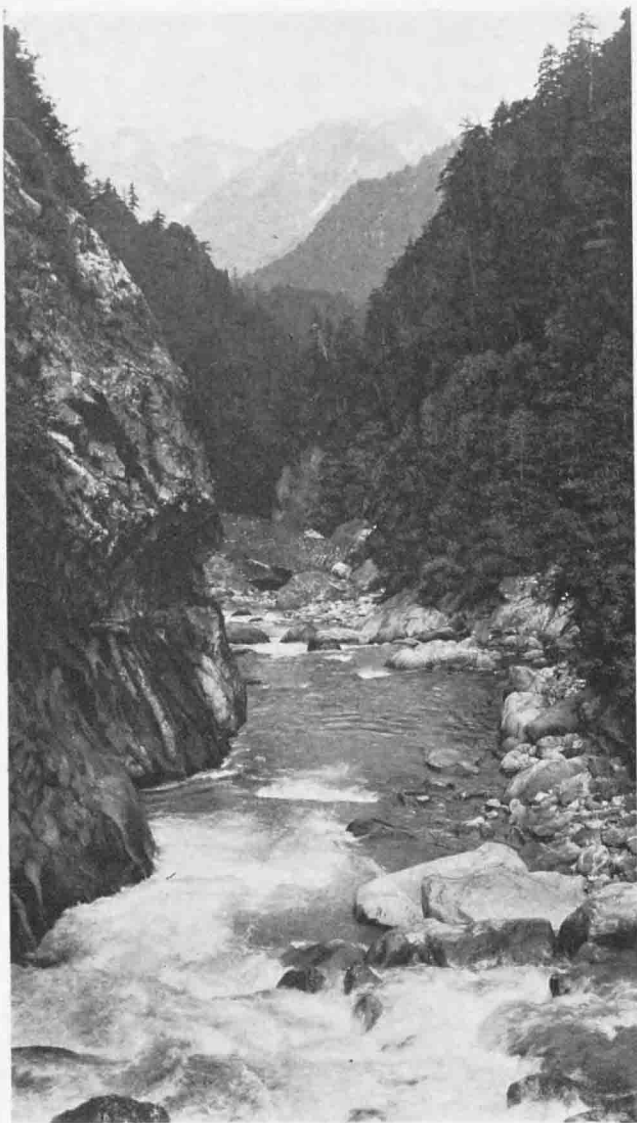
黒部西瓜の産地。

黒部鐵道 ▼三日市、宇奈月間一五軒六。

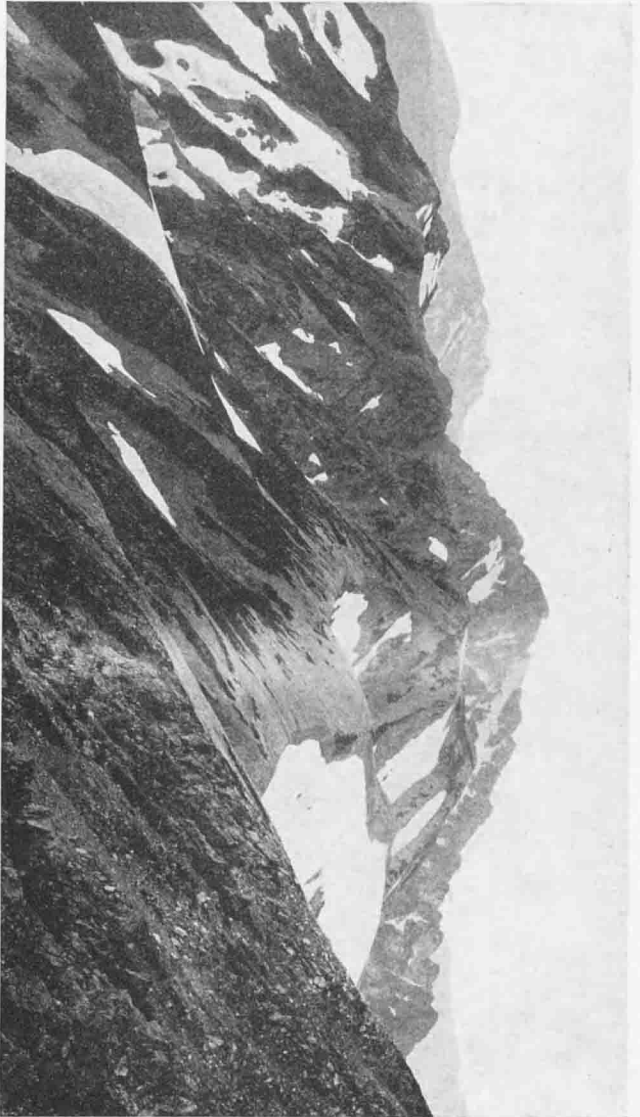
宇奈月(うなづき) ▼宇奈月温泉(黒難温泉)

からの引湯) 驛附近、こゝは黒部溪谷の關門で、翠巒四面を繞り黒部川の清瀬脚下に流れ、氣澄み水清く北陸温泉地として別境をなしてゐる。湯は胃腸病、腺病によい。また附近はスキ一の好適地で、就中宇奈月臺附近が最もよい。

黒部溪谷 宇奈月から上流黒部川の溪谷をいふ。温泉から約八軒の奥には黒難、二見の二温泉があり、約一八軒の奥には新鐘釣、鐘釣温泉があり、そこから更に八軒に猿飛の奇勝がある。それから本流を離れて祖母谷に入ることを二軒餘に祖母谷温



黒 部 溪 谷



む望を岳釵らか山立

跡 原 小



おわら、おわらは  
 何處でも流行る  
 わけて八尾は  
 オワラ梅は流行る。  
 八尾よい所  
 翠の都  
 秋は野山も  
 オワラ座籠



泉がある。猿飛附近から日電會社の開いた歩道に就いて本流左岸を溯ること約一二軒にして仙人谷に達する。そこには花崗岩の窪みに湛へた天然浴槽がある、更に上流約一〇軒で棒小屋澤に達する。宇奈月から四八軒、この間奇抜な山容と豪宕な水態とは誠に黒部獨特の景趣で、秋十月下旬頃満山の楓葉が白水と相映發する光景は眞に天下の絶觀である。又立山連峰並白馬連山へ登るには黒部から連絡がある。

日電會社軌道は宇奈月から猿飛まで敷設さるゝ豫定で、現在は猶又まで開通し、大體黒部林道に沿ひ途中黒薙温泉を経て行く、この軌道には黒部保勝會の手を経て便乗することも出来る。

旅館(宇奈月温泉) 富山館支店、延對寺別館、宇奈月館。

**生地** (いくち) ▼生地鑛泉 二軒、自動車がある。附近には庚申松、越湖ヶ濱の名勝がある。  
**入善** (にふぜん) 黒部西瓜の本場、縞皮及淺黄皮の西瓜で前者にあつては一箇三七疋に達するのがある。

**泊** (とまり) ▼小川温泉 東二軒、自動車の便がある。後に馬鬣山を控へ、前に有磯海を見渡す高臺にあつて眺がよい。親不知、子不知の天險は一〇軒の近くにあつて浴客一日の散策地である。附近笹川橋のあたりに芭蕉の「早稻の香や分け入る右は有磯海」の句がある。

旅館 小川温泉株式會社旅館。

**親不知** (おやしらず) 市振から親不知に至る間白馬山脈の走つて海に迫る處、親不知の嶮がある。峭壁亂峙すること約四軒、今はその中腹に新道路が

開鑿されたが、昔は海波の迫る間に路を通じたので、朔風波浪を躍らすときは諸所の岩窟内に一時身を避けては走り過ぎるを以て親子相顧みるの遠なきものがあつた。今鐵道はこの山の半腹を穿つて通じ、往時の險難の場所も坐ながらにして車窓から望見することが出来る。驛の東三三〇米に龍岩、東約一料に駒返しこまがへの奇勝がある。

旅館 二見館、親不知館。

糸魚川 (いといがは) 姫川の河口東邊にあり、

もと松平氏一萬石の城下であつた。この方面からの日本北アルプスの白馬嶽登山口である。姫川に沿うて進むこと二二料にして平岩温泉があり、自動車が行く、こゝで強力を雇ひ、右折大所川おほところに沿ひ、大所、木地屋などを過ぎ、約一六料にして蓮華七湯に達する。それから大蓮華の白馬頂上まで約一二料、そこ

に山小屋があり、約百八十人を收容する。翌朝日の出を拜し小蓮華を経て約一二料にして、蓮華七湯に歸る。或は東に白馬尻の雪溪を下り直ちに四ツ谷に出で、又は鏈ヶ岳くさりから南方大黒だいこくに縦走し、或は西に清水岳しみづから祖母谷ばばだにに下り黒部に出るもよい。

旅館(糸魚川) 平安堂、指物屋、早川屋。  
名物 ゆべし。

▼小谷温泉 南二四料、途中一六料の間自動車がある、海拔一、〇〇〇米、避暑に適する。

旅館 山田、浩養館。

郷 津 (がらづ) ▼居多神社 東約三料、居多濱の松山にあり、延喜式内の古社で上越地方第一の名祠である。五如來の巨像を以て有名な五智寺はこゝにある。

直江津 (なほえつ) 三六六料五 信越本線接續點。

昭和五年三月二十五日印刷  
昭和五年三月三十一日發行

## 鐵 道 省

印刷者 井 上 源 之 丞  
東京市下谷區二長町一番地

印刷所 凸版印刷株式會社  
東京市下谷區二長町一番地